

News Release

2015年6月18日
日立マクセル株式会社

3,000ルーメンを超える明るさを実現した「LED プロジェクター」を開発

HLD LED 技術*1を採用した固体光源エンジンを搭載し、より自然で鮮明な映像を投写

日立マクセル株式会社(取締役社長:千歳喜弘/以下、マクセル)は、このたび LED 固体光源エンジンを搭載し、3,000ルーメンを超える明るさを実現した「LED プロジェクター」を開発しました。

この LED 固体光源エンジンは、HLD LED 技術*1とマクセルが開発した高効率光学技術を採用しています。これにより、LED 光源のプロジェクターとしてはトップクラスの3,000ルーメンを超える明るさとコントラスト比 20,000:1 を実現し、さらに、約 2 万時間にわたってより鮮明な映像を投写できます。

この「LED プロジェクター」は、米国・フロリダ州で開催されている北米最大の業務用映像音響機器見本市「InfoComm 2015」(6月17日(水)~19日(金)、現地時間)にて技術展示しています。

HLD LED 技術は、青色 LED が発する光を、蛍光体ロッドを通じて高出力の緑色光に変換するもので、高輝度の赤色 LED と青色 LED の採用およびマクセルの高効率光学技術を組み合わせることにより、3,000ルーメンを超える明るさを実現しました。

HLD LED と LED の発光する純度の高い光と高速な応答性によって、赤青緑 3 色をよりよく収斂し、自然で正確な色再現を可能にし、より鮮明な映像を投写できます。

マクセルは、この LED 固体光源エンジンを 5,000ルーメン以下の固体光源プロジェクターのコア技術として位置づけ、2016 年前半から同エンジン搭載プロジェクターを市場投入し、成長著しい固体光源プロジェクターへの需要に応えていく計画です。

*1 HLD(High Lumen Density) LED 技術: フィリップス社が所有する Color Spark HLD LED Technology です。

以上

ニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日時点のものです。

予告なしに変更され、発表日と情報が異なる場合もありますので、あらかじめご了承ください。
